

5

まちづくりの目標と
分野別方針

5-1. まちづくりの目標

3章に示す将来像の実現に向けて、拠点・軸・エリアの役割や特性に応じたまちづくりを進めるための、3つの目標を設定します。「環境」が整った様々な「空間」で多様な「活動」が展開され、にぎわいが創出されるまちづくりを推進していきます。

目標1

文化・交流・にぎわいを生み出す

「活動」の創出

個性的で魅力ある店舗等による商業活動、企業による経済活動、人々による地域活動、観光客を受け入れる活動など、多彩な「活動」により人々を惹きつけ、にぎわいあふれる複合市街地を目指します。

商業の活性化に向けた取組はもとより、企業等の業務機能やそれを支える機能、暮らしの場として生活を支える機能等の集積を図ります。また、様々な人々が出会い、交流し、活動が活性化する機会を創出します。

目標2

地域の価値を高める

「空間」の充実

利便性の高い公共交通や質の高い駅空間、JR・東急蒲田駅東西やまちを繋ぐ歩行者空間、まちの随所にあるゆとりある空間など、充実した都市「空間」が多様な人々を受け入れ、回遊や滞在を促し、地域全体の価値が高まることを目指します。

羽田空港へのアクセス向上を図る新空港線※の整備、蒲田駅の東西や駅とまちをスムーズに繋ぐ東西自由通路や駅前広場の整備等を推進します。また、歩行者にやさしい歩行者空間の形成、老朽化建築物の共同化等を推進します。

目標3

安心して快適に過ごせる

「環境」の向上

地震や水害などの災害に強い環境、誰もが使いやすく多様な人々を受け入れる環境、個性的で魅力ある環境など、豊かな「環境」が人々に快適さや安心感を与えるまちを目指します。

災害対策の拠点として災害に強いまちづくりを推進するとともに、減災や災害発生時の早期復旧に向けた備えの強化や、関係者の連携した防災活動等により、まちの安全性を高めます。また、誰もが分かりやすく移動しやすい環境の整備、ゆとりを与える緑の確保やエネルギー消費を減らす取組などを推進します。

(横断的取組による相乗効果の創出)

個々の取組による効果を更に高めるためには、「活動」「空間」「環境」に渡る複数の取組を横断的・総合的に行うことが有効です。

5-2. まちづくりの分野別方針

前項で示す3つの「まちづくりの目標」を踏まえ、13の分野別方針を設定します。

目標1

文化・交流・にぎわいを生み出す「活動」の創出



分野別方針1【商業】

いきいき元気な商業のまち

駅周辺は、商業を中心に発展してきましたが、居住者の増加や消費者ニーズの多様化など商業を取巻く環境が変化しており、競争も激化しています。

多様な人々のニーズに応じた商業の集積を促進するとともに、蒲田らしさを活かしたイベントの開催や情報発信に取り組み多様な人々を呼び込むことで、地域住民や来街者でにぎわうまちを創出し、商業で生まれる活力が将来に持続する商業のまちを目指します。



分野別方針2【産業・ビジネス】

産業やビジネスが育つまち

東海道軸と新たな広域連携軸（新空港線軸）の結節点である蒲田には東京城南地区の産業・経済の活性化をけん引する中心拠点としての役割が期待されています。

羽田空港との近接性や交通結節性を活かし、業務機能、産業支援機能やビジネス交流機能などの誘導を図るとともに、羽田空港や HANEDA×PiO(羽田イノベーションシティを含む)との連携を強化することにより、産業やビジネスが育ち、国内外へ発信することで、多くのビジネスパーソンが集い交流するまちを目指します。



分野別方針3【暮らし】

多様な人々が快適に暮らせるまち

羽田空港の国際化や共同住宅等の増加などに伴い、居住者・学生・外国人等が増えていることを踏まえ、多文化都市として、誰もが安心して暮らせる居住環境の整備が求められています。

地域住民の生活を支える施設や学びと交流の場の充実を図るとともに、文化を育む活動や人々の支えあいを育む機会の充実を図り、誰もが必要なサービスを受けることができ、それぞれのライフスタイルを快適に実現できるまちを目指します。



分野別方針4【観光】

国内外と繋がり、何度も訪れたいくなるまち

羽田空港の機能強化や新空港線※整備などに伴い、蒲田を訪れる人の増加が期待されます。また、蒲田特有の文化に、若者や海外の文化が加わるなど、多様化が進んでいます。

空港利用者など様々な人をまちに呼び込むために、蒲田らしい観光資源や魅力の発信などを進めます。また、おもてなしの体制づくりや宿泊機能の誘導などを行うことにより、国内外の来街者が居心地良く滞在し、多文化の交流を育むまちを目指します。

目標2 地域の価値を高める「空間」の充実



分野別方針5【駅・駅前広場】

ゆとりを感じる利便性の高い駅と駅前広場

JR・東急蒲田駅を中心とした駅前空間を構成する基盤施設は、駅舎・駅ビルの老朽化、東西ネットワークの分断や駅前広場の機能不足など様々な課題を抱えています。

区を中心拠点として交通結節機能の向上を図るためにも、新空港線[※]の整備に向けた取組を進めるとともに、東西自由通路、駅舎・駅ビルと駅前広場などを含む基盤施設の一体的な整備を進め、ゆとりある空間を有し、駅利用者や地域にとっても利便性の高い基盤施設を目指します。



分野別方針6【歩行者空間】

歩いてめぐり楽しめるまち

蒲田には魅力的な店や場所が各所にありますが、幅の狭い道路や人の往来を阻害する車両の存在などにより、魅力的なスポットを巡り楽しむための回遊性や快適性に課題があります。

商店街や呑川沿いなど道路では、回遊性に配慮した歩行者空間を創出するとともに、歩行者の安全とまちなみの連続性の確保を進め、思わず歩きたくなり楽しめる歩行者にやさしいまちを目指します。



分野別方針7【交通】

様々な手段で快適に移動できるまち

駅前や商店街などでは、回遊性の向上によるにぎわいの創出が求められていますが、歩道を自転車が行くなど、快適な移動に課題があります。

自転車駐車場や自転車利用環境の計画的な整備と合わせて、歩行者・自転車・次世代型の新たなモビリティなど多様な移動手段の有効活用により、誰もが快適に移動できるまちを目指します。



分野別方針8【建物】

建物の更新や活用が進むまち

老朽化により更新時期を迎えた建築物が増えてきています。また、マンションなどの共同住宅の開発により、商店の連続性が欠如するなどの状況も見受けられることから、まちの魅力や活力の維持・向上が必要です。

共同化・協調化のほか多様な手法による建替えや既存ストックの有効活用を促進し、商業・業務・宿泊機能など多様な機能が調和した複合市街地の形成と土地の高度利用を図ります。商業が集積するエリアでは、低層部には商業や業務機能が連続し、中高層階には業務機能や住宅などの用途がバランス良く配置されたまちを目指します。

目標3 安心して快適に過ごせる「環境」の向上



分野別方針9【防災】

災害に強いまち

災害時の対策本部となる区役所を有し、また、地域住民だけでなく、ビジネスパーソンや学生などが集中する地区であることから、災害に強いまちづくりが求められます。

大規模災害が発生した際に、機能継続や早期復旧が可能となるまちを目指して、建築物等の耐震化や浸水対策、無電柱化などによる防災対策を進めるとともに、避難対応と帰宅困難者対応を円滑に進めるための体制構築により安全・安心なまちを目指します。



分野別方針10【ユニバーサルデザイン※】

誰もが使いやすく人にやさしいまち

これまで道路の段差解消や公共施設のバリアフリー整備などを中心に進めてきましたが、高齢化や国際化などの社会動向も踏まえて、高齢者・障がい者・子ども・外国人等の誰もが利用しやすい、ユニバーサルなまちづくりが不可欠です。

基盤施設のバリアフリー整備を進めるとともに、「どこでも、誰でも、自由に、使いやすい」を基本に、サービスやサインなどの情報提供や、時代に応じた先端技術を取り入れた取組等により、人にやさしいまちを目指します。



分野別方針11【美化・景観】

個性と魅力のあるまち

まちなかの風景には蒲田らしい雑多なエリアなど、魅力的な場所が多くあります。一方で、路上放置物や看板、広告の無秩序な設置などにより、美観が阻害されている場所も数多くあります。

多文化都市として誰もが気持ちよく過ごせる環境を整備するため、清掃活動や蒲田らしさを活かした景観の育成により、多くの人に受け入れられるまちを目指します。



分野別方針12【自然・環境】

自然を感じ、環境にやさしいまち

緑の総量は少なく、呑川は有効活用ができていない状況ではありません。四季を通じて自然を感じながら、快適に佇むことが出来る外部空間の形成が求められます。

自然や潤いを感じ快適に過ごすことができるよう、公園や道路の緑化や呑川の親水空間整備等により、まちなかに留まり過ごしていただく環境づくりを目指します。また、脱炭素化に向けて、まち全体で環境負荷の低減に取り組み、地球環境にやさしいまちを目指します。



分野別方針13【防犯】

安全・安心なまち

夜の治安の悪さや違法駐輪など多くの課題があります。課題解決のためには、犯罪発生を抑制するまちの環境づくりが必要です。

地域住民・商店街・警察等と取り組む防犯活動や、自転車マナーや盗難防止に向けた啓発活動などを継続することで、若い人や女性など誰もが安心できるまちを目指します。